

連載

# Turbo HAMLOGの 部屋

Turbo HAMLOG 開発者  
JGIMOU 浜田 博 Hiroshi Hamada

第12回

## 交信データのバックアップ

今回は、Turbo HAMLOG/Win (以下、HAMLOGと略します) の転ばぬ先の杖、QSO データのバックアップについてご紹介します。

### 交信データの バックアップ

10年以上使い込んできたHAMLOGのQSOデータ数万件を、不注意やパソコンのクラッシュにより失ってしまった、というような例を耳にした(ネットで目にした)ことがあります。そのせいで、アマチュア無線のモチベーションがだいぶ下がったとか。

筆者の場合、初期のHAMLOGから35年ほど経ちますがQSOデータが壊れた経験はありません。

HAMLOGが起動した状態でいきなりパソコンの電源を切る、リセットする、というテストをしたこともありますが、QSOデータが壊れることはありませんでした。

しかし、現在使用中のQSOデータに過去のQSOデータを上書きしてしまい、最近の交信が消えてしまった、ということは何度あります。

この場合でも、バックアップをしっかりと取っていましたので、焦ることなく復旧できました。

### まずはファイルメニューから

図1は、HAMLOGのファイルメニューです。

図2 (p.164) は、ファイルメニューから「QSOデータのバックアップ(B)」を実行して表示されたバックアップウィンドウです。

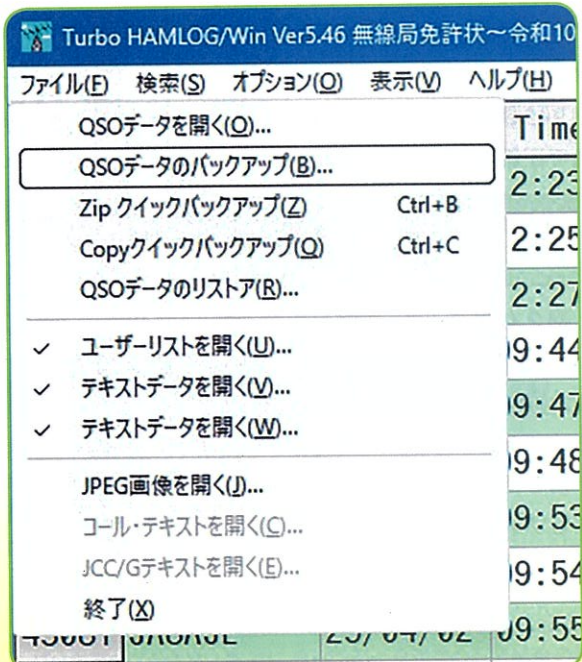


図1 HAMLOG メインウィンドウ左端のファイルメニュー



## 圧縮バックアップ

HAMLOGでは、QSOデータをZIP形式で圧縮してバックアップすることを推奨しています。

これは、圧縮することによりファイルサイズが5分の1程度に小さくなることや、ZIP形式であればWindows上でフォルダのような扱いになっているため簡単に展開することができる、などの理由によるものです。

図2の例では、[圧縮バックアップ]が選択されていますので、指定したフォルダにQSOデータをZIP形式で圧縮してバックアップします。

圧縮には、HAMLOGと一緒にインストールされた7-ZIP32.DLLというソフトを利用しています※1。

## バックアップファイル名の形式

圧縮バックアップのファイルは、日付と時刻とQSOデータ総件数をファイル名にしたものです。

例えば、2025年5月14日19時02分に、51,567件分のQSOデータをバックアップすると、Bk250514\_1902\_0051567.zipというファイル名で圧縮バックアップされます。

## バックアップフォルダの設定

図2右端の[フォルダ]ボタンで、バックアップファイルを保存しておきたいドライブやフォルダをあらかじめ設定しておいてください。

図3は、バックアップ先のドライブとフォルダを選択するウィンドウです。

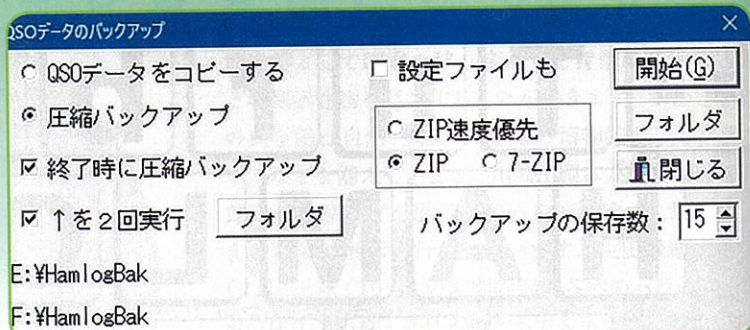


図2 QSOデータのバックアップ。ここでバックアップの動作を設定する

新たにフォルダを作成したいときは、

- ①まず、図3の[ボリューム (D:)]や[ローカルディスク (E:)]などドライブを選択します。
- ②図4左下の[新しいフォルダーの作成 (M)]をクリックすると、そのドライブ直下に[新しいフォルダー]という名前のフォルダが作成されます。
- ③フォルダ名を変更するには、そのフォルダ上で右クリックすると、表示されたメニューの中に[名前の変更 (M)]があります。

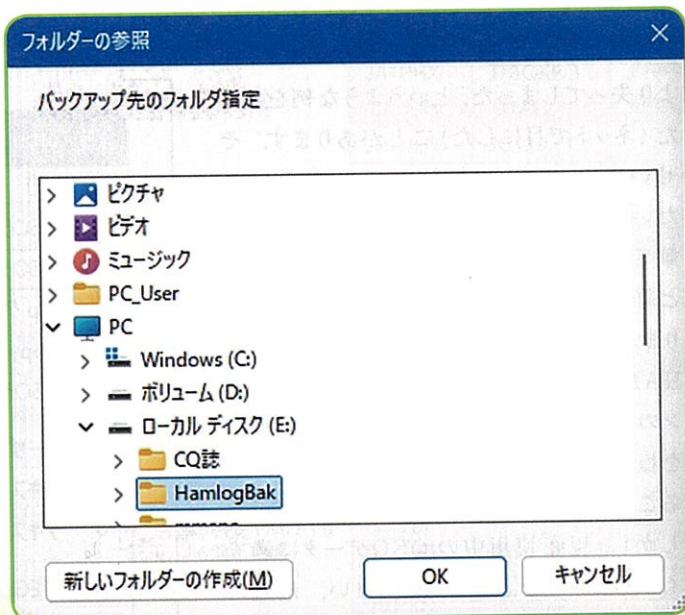


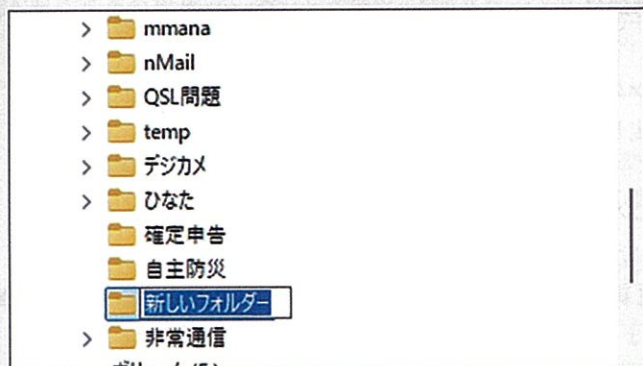
図3 バックアップ先のドライブとフォルダを選択する

※1 7-ZIP32.DLLは秋田 稔氏が作成したフリーソフトです。zip形式書庫や7z形式書庫の圧縮展開(解凍)を行うことができます。ライブラリであるため単体では動作しません。



## フォルダーの参照

### バックアップ先のフォルダ指定



新しいフォルダーの作成(M)

OK

キャンセル

図4 「新しいフォルダーの作成 (M)」ボタンを押した状況

## 圧縮バックアップ実行

図2の「開始 (G)」ボタンをクリックすると、図2右端の「フォルダ」ボタンであらかじめ設定したフォルダに圧縮バックアップします。

図2の例では、E:\HamlogBak フォルダにバックアップされます。

このとき、「設定ファイルも」にレ点が入っていると、各設定ファイル (Hamlogw.ini, Hamlogw2.ini, RigAnt.dat) も一緒に圧縮バックアップします。

HAMLOG E-Mail QSL (略して hQSL) の設定ファイル (Mail QSL.ini) も存在すれば、一緒に圧縮バックアップします。

## 圧縮形式の指定

### ZIP 速度優先

圧縮率よりも圧縮する速度を優先してバックアップします。

### ZIP

通常の ZIP 形式で圧縮バックアップします。

## 7-ZIP

7-ZIP 形式という高い圧縮率の形式でバックアップしますので、より小さく圧縮されます。

そのかわり、圧縮には少し時間がかかります。また、ファイル拡張子は .zip ではなく .7z となります。

## QSOデータをコピーする

図2の「QSOデータをコピーする」を選択すると、文字どおりコピーバックアップをします。

「開始 (G)」ボタンをクリックすると、図3と同様のコピー先のフォルダ選択ウィンドウが表示されますので、指定したフォルダに QSO データをその

ままコピーすることができます。

図2の「設定ファイルも」にレ点が入っていると、設定ファイル (Hamlogw.ini, Hamlogw2.ini, RigAnt.dat) も一緒にコピーします。

図5は、「QSOデータをコピーする」を実行したところ、すでに同名のファイルが存在したときのメッセージです。

これは Windows 上でコピー操作をしたときと同じですので、メッセージに従って処理してください。

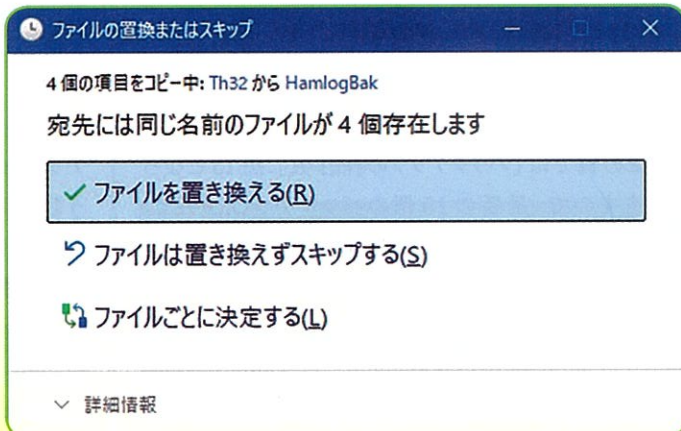


図5 コピーバックアップのとき、すでに QSO データが存在した場合の置き換え (上書き) 確認



### 終了時に 圧縮バックアップ (推奨)

図2 (p.164) の「終了時に圧縮バックアップ」にレ点を入れておくと、HAMLOG の終了時に自動的に圧縮バックアップします。

あらかじめ右端の「フォルダ」ボタンをクリックして、バックアップ先のドライブやフォルダを指定しておいてください。

図2の例では、E:¥HamlogBakフォルダにバックアップされます。これは1回目のバックアップです。

このバックアップ機能では、QSOデータに更新がない場合はバックアップせずに終了します。また、QSOデータの件数が5局未満の場合もバックアップしません。

### ↑を2回実行 (推奨)

図2の「↑を2回実行」にレ点を入れておくと、HAMLOG の終了時に圧縮バックアップをもう一回実行します。

ここにレ点を入れたときにバックアップ先フォルダを指定しますので、1回目の「終了時に圧縮バックアップ」とは別のフォルダを指定してください。

その隣の「フォルダ」ボタンをクリックして、2回目のバックアップ先のフォルダを変更することもできます。

図2の例では、F:¥HamlogBak フォルダに2回目のバックアップが保存されます。

### バックアップの保存数

「終了時に圧縮バックアップ」と、「2回実行」のフォルダに保存するバックアップファイルの個数を指定します。

図2の例では「バックアップの保存数」が15となっていますので、最新の15個のバックアップが残り、古いバックアップは自動的に削除されます。最小は5個です。

### 「ドキュメント」フォルダへの 圧縮バックアップ

実は、図2のバックアップ設定にかかわらず、HAMLOG 終了時にはQSOデータが必ずバックアッ

プされています。

このバックアップでは、ドキュメントフォルダ内にHamlogBakというフォルダが作成され、HAMLOGの終了時にバックアップします。

バックアップする／しないの選択はありません。

「終了時に圧縮バックアップ」を設定していなくても、QSOデータに更新があれば勝手にバックアップをしています。

また、最新の5個を残し、古いバックアップは自動的に削除します。

Windows11 や Windows10 の場合、

C:¥Users¥ユーザー名¥Documents¥  
HamlogBak

というフォルダに圧縮バックアップされます。

筆者は、このバックアップがあったことにより「助かった!」というユーザーの例を複数記憶しています、hi。

### バックアップは 必ず設定しておきましょう

図2のウィンドウで「終了時に圧縮バックアップ」を設定することにより、HAMLOG 終了時に2個のバックアップが作成でき、ドキュメントフォルダへの勝手にバックアップと合わせて計3個のバックアップができます。

図2のウィンドウで設定するバックアップフォルダは、QSOデータを置くドライブとは別のドライブが望ましいところです。

これは、物理的に別のハードディスク、別のSSD、外付けSSD、またはUSBメモリなどという意味です。

筆者の場合は、Windows システムはCドライブ、HAMLOG 関係はDドライブ、終了時バックアップは図2のようにEドライブとFドライブ、という設定にしています。

これにより、SSD がどれかひとつ壊れても何とかなります。

### QSOデータの二重化

図6は、HAMLOG のオプションメニューから環境設定を表示させ、「設定2」タブを開いた状況です。







たまには QSOデータの二重化のチェックマークを入れ直して、二重化 QSO データにコピーしたほうがよいでしょう。

QSOデータの二重化とあわせて、終了時の圧縮バックアップも必ず設定しておきましょう。

- ②使用中の QSOデータと二重化 QSOデータで登録件数や更新年月日が異なる場合、これを一致させるため、HAMLOG 起動時に使用中の QSOデータを二重化 QSOデータに上書きコピーしてよいか、確認のメッセージが表示されます。

これは、一部をうっかり削除してしまった QSOデータで二重化 QSOデータを上書きしてしまうのを防ぐためです。

問題なければ、[はい] をクリックして上書きしてください。

### 直近の交信だけ 二重化 QSOデータから取り込む

交信中に不幸にもパソコンが壊れてしまい、昨日までのバックアップと二重化 QSOデータが存在するという仮定で、QSOデータの復旧を想定してみます。

前述のように、他のアプリから QSOデータに書き込むことがある場合、二重化 QSOデータにはそれが反映されていませんので、バックアップの内容のほうが正確です。

以下、別のパソコンに HAMLOG を新たにインストールしたものと仮定します。

- ① HAMLOG を起動し、図1 (p.163) のファイルメニューから [QSOデータのリストア] を実行して USBメモリなどにある昨日のバックアップか

ら QSOデータをリストアします。図8がリストアのウィンドウです。

- ② HAMLOG を再起動します。QSOデータは昨日までの内容ですので、直近の交信は登録されていません。
- ③ HAMLOG のオプションメニューから [データのインポート] を実行し、USBメモリなどにある二重化 QSOデータを開きます。
- ④ 図9、[データのインポート] ウィンドウの [追加のみ] ボタンをクリックし、昨日までの QSOデータにその後の交信分を追加します。

以上の操作で、パソコンが壊れる直前の状態の QSOデータが復元できます。

なお、本誌 2025 年 5 月号で [QSOデータのリストア] と [データのインポート] の方法についてご紹介しましたので、詳細はそちらをご覧ください。それでは、次号に続きます。

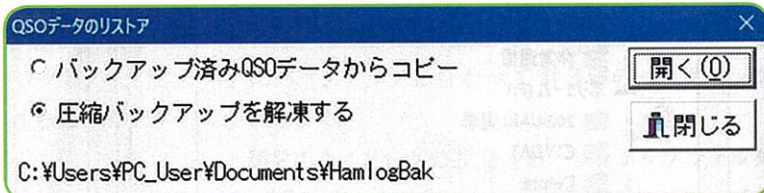


図8 QSOデータのリストア. 圧縮バックアップを解凍 (展開) する

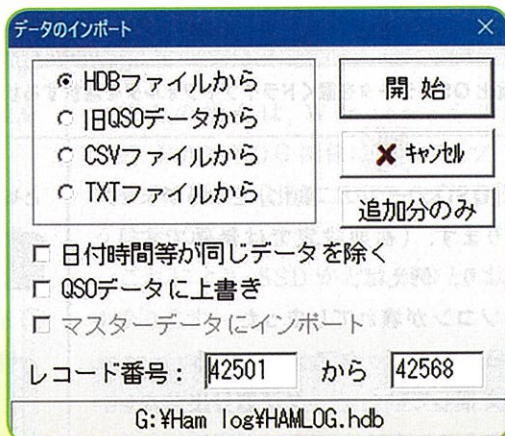


図9 データのインポート. USBメモリ上の QSOデータを取り込む



## 万博特別記念局のコールサインについて

ご案内のとおり、(一社)日本アマチュア無線連盟では「大阪・関西万博」会場内にて特別記念局「8K3EXPO」を運用しています。

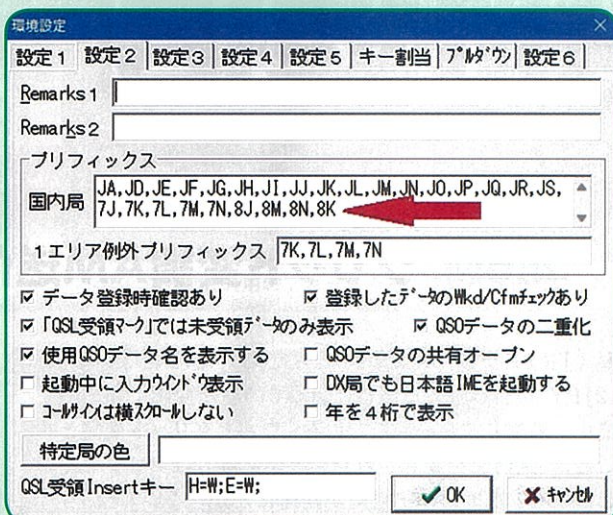
万博特別記念局の開設までのご苦労と、初の8Kプリフィックス発給ということに対し、関係者の皆様に敬意を表します。

### DX局扱いとなってしまうので 設定変更をお願いします

筆者が万博開幕前に「8K3EXPO」をHAMLOG ver5.46 (2025/03/29版)に入力してみたところ、DXのチェックボックスにレ点が入ってQTH欄にはJapanと入力されてしまい、8Kプリフィックスには未対応ということに気が付きました。

図Aは、HAMLOGのオプションメニューから表示する環境設定の「設定2」タブです。

8K3EXPOと交信される方が多いと思いますので、環境設定の「設定2」タブの国内局のプリフィックスに、図Aのように8Kを追加してください。これにより、国内局扱いとなります。



図A 環境設定の「設定2」タブ。国内局のプリフィックスに8Kを追加した状況

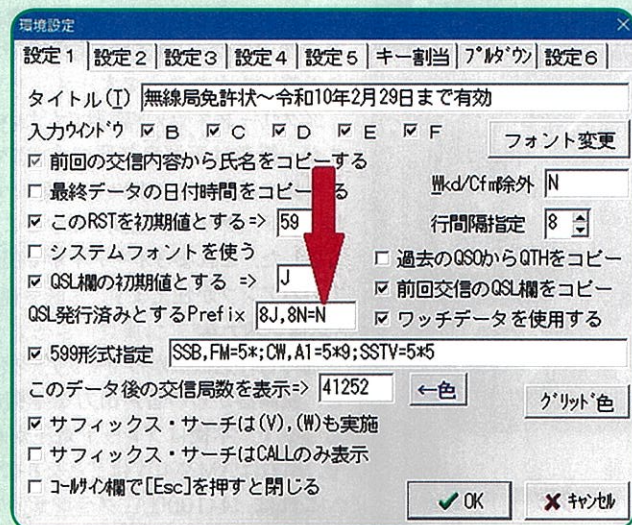
### 記念局あてのQSLカードを印刷しないようにする

図Bの環境設定の「設定1」タブの「QSL発行済みとするPrefix」は、「8J, 8N=N」となっています。

これは、プリフィックスが8Jや8Nの局あてにはQSLカードを印刷しないよう、コールサイン入力と同時にQSL欄の2文字目にNを入れ、印刷済み扱いとする機能です。

この「8J, 8N=N」を「8J, 8K, 8M, 8N=N」に変更してください(8Kと8Mを加えます)。

記念局の場合は、一般的にQSLカードの発行はワンウェイだと思います。



図B 環境設定の「設定1」タブ。「QSL発行済みとするPrefix」にカンマで区切って8K, 8Mを追加する

この変更により、プリフィックスが8J, 8K, 8M, 8Nだった場合は、コールサイン入力と同時にQSL欄の2文字目にNが入り、QSLカード発行済み扱いとしてQSLを印刷しないようにすることができます。

### HAMLOG ver5.46a (2025/04/15版)

HAMLOG ユーザーリストの扱いで8Kプリフィックスに未対応の部分がありましたので、HAMLOG ver5.46aで修正しました。

また、このver5.46aでは、前述の環境設定の2箇所を空欄にして再起動するだけで8Kプリフィックス追加の設定変更ができますので簡単です。ご活用ください。 (CQ)